

桃山三都

特集 佐賀のお正月

2025（令和7）年が幕を開けます。「一年の計は元日にあり」と言われますが、神々しい初日に手を合わせ、清らかな心持ちで新年のスタートを切りたいと思ってる方も多いことでしょう。いま佐賀市の佐賀県立美術館では、佐賀新聞創刊140周年記念特別展「桃山三都―京・大坂と肥前名護屋―」が開催中です。豊臣秀吉が天下統一を成し遂げた桃山時代に栄えた三つの都市に光を当てており、お正月に鑑賞するのにぴったりの展覧会です。

2024 12.6 金 - 2025 1.29 水
佐賀県立美術館 SAGA PREFECTURAL ART MUSEUM
2・3・4号展示室(佐賀市内1-15-23)

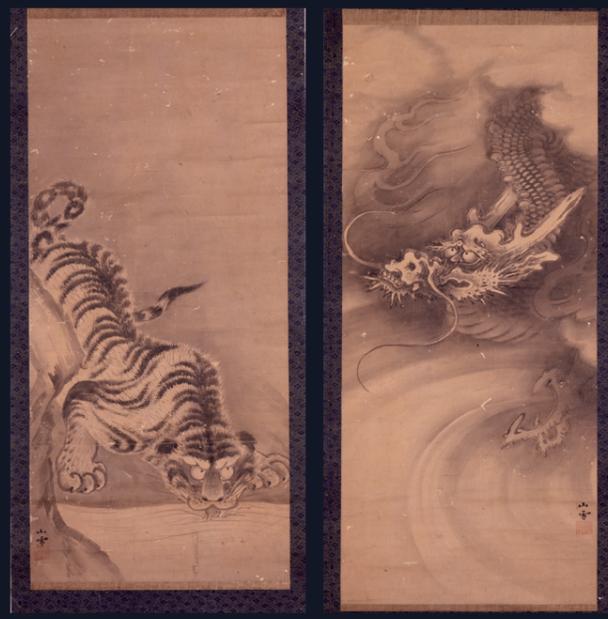
―京・大坂と肥前名護屋―
題字：小林 勇輝



黄金の茶室（復元）
令和4年（2022）制作
佐賀県立名護屋城博物館蔵



豪華絢爛な「黄金の茶室」。開場式では、特別にお点前が披露された。12月6日、佐賀市の佐賀県立美術館



龍虎図 狩野山雪
江戸時代 17世紀前半 佐賀県立博物館蔵

豪華絢爛 秀吉ゆかりの「黄金の茶室」を移設展示



黄金の茶室（復元）
令和4年（2022）制作
佐賀県立名護屋城博物館蔵

日本史の中で、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が天下人として野心を燃やす戦国・安土桃山時代、江戸初期はともどもドラマチックで、特段の歴史好きでなくとも興味深い時代であることでしょう。私たちの佐賀県には、その時代の流れをたどる上で貴重な場所があります。秀吉が文禄・慶長の役の出兵拠点として築き、全国から名だたる大名が集った肥前名護屋城（唐津市鎮西町）です。その壮大さは「城石垣は京都にも勝り」「天守なども衆楽第にも勝る」と言われるほどでした。

このお正月、「桃山三都」展でぜひとも鑑賞いただきたいのは、豪華絢爛な秀吉ゆかりの「黄金の茶室」（復元）です。

全体に金箔を施した黄金の茶室が登場するのは1585（天正13）年。関白となった秀吉が千利休を伴い、初めて御所で開いた「禁中茶会」とされています。合わせて9回の使用記録のうち、後半の4回は肥前名護屋です。秀吉は明国からの使節団を黄金の茶室に招き入れるなど外交の舞台としても用いており、その権威の大きさを誇示したのでしょ。黄金の茶室は、佐賀県立名護屋城博物館が所蔵しており、2022年度の設置以来、今回初めて館外へ移設展示されています。

12月6日の開場式では、その黄金の茶室で特別にお点前が披露されました。表千家同門会佐賀県支部幹事の馬場宗白さんが亭主を務め、同支部元副支部長の高森宗順さんが補佐。山口祥義知事が正客となり、佐賀新聞社の中尾清一郎社長が黄金の茶室の歴史の意味合いなどを解説しました。豪華絢爛な桃山文化の世界を象徴するたまたずまに、参加者からはため息がもれました。



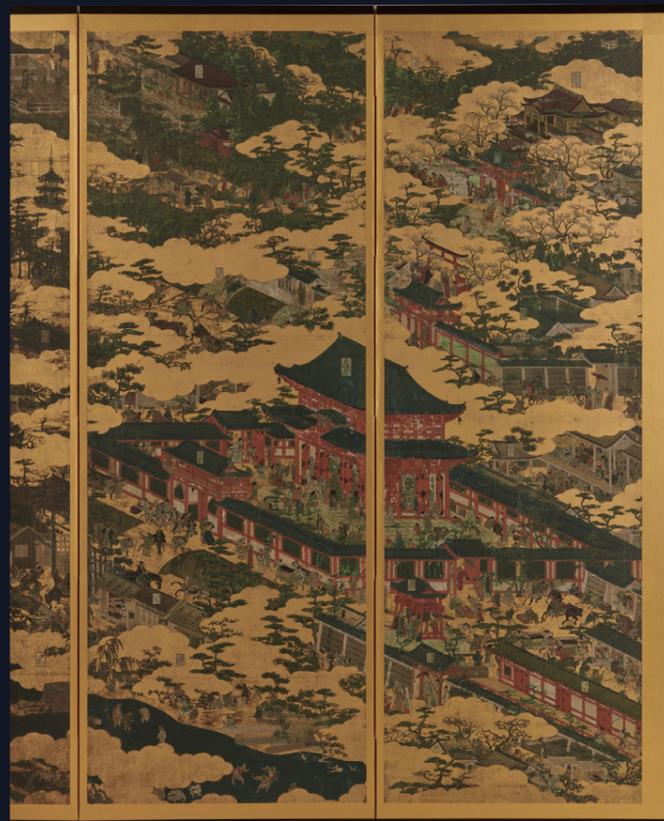
高精細複製品 松林図屏風（プロジェクションマッピング）
 原本：国宝 長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀 東京国立博物館蔵
 高精細複製品制作：文化財活用センター、キャンノン株式会社



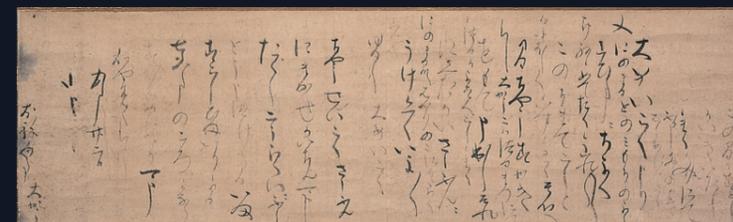
高精細複製品 風神雷神図屏風（写真右・右隻）
 夏秋草図屏風（写真左・左隻）
 原本：重要文化財 尾形光琳、酒井抱一筆 江戸時代・18～19世紀 東京国立博物館蔵
 高精細複製品制作：文化財活用センター、キャンノン株式会社



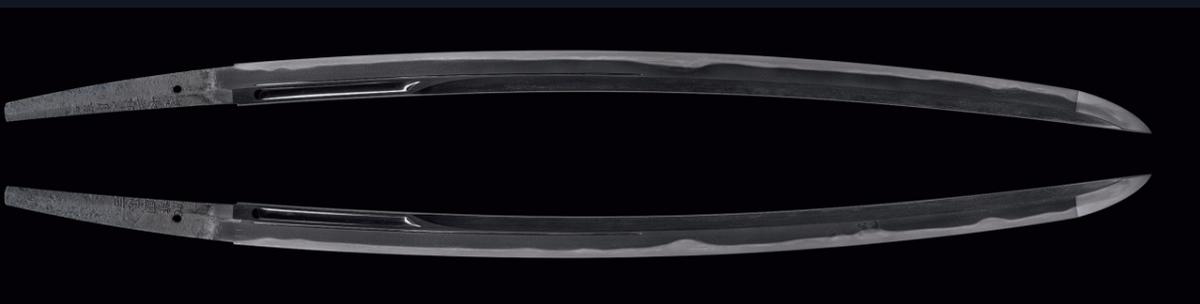
高精細複製品 洛中洛外図屏風（舟木本・部分）
 原本：国宝 岩佐又兵衛筆 江戸時代・17世紀 東京国立博物館蔵
 高精細複製品制作：文化財活用センター、キャンノン株式会社



肥前名護屋城図屏風
 桃山時代～江戸時代初期 16～17世紀
 佐賀県重要文化財 佐賀県立名護屋城博物館蔵



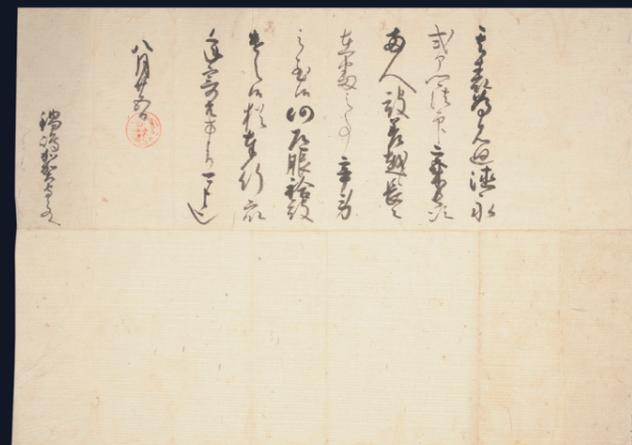
豊臣秀吉自筆書状（おね宛）
 （文禄2年・1593）5月22日
 佐賀県立名護屋城博物館蔵



刀銘 肥前国忠吉 慶長五年八月吉日
 慶長5年（1600） 佐賀県立博物館蔵



菊柄紋蒔絵風呂道具 風呂桶
 桃山時代 16世紀
 佐賀県重要文化財 佐賀県立博物館蔵



豊臣秀吉朱印状（鍋島直茂宛）
 （慶長3年・1598）8月25日
 佐賀県立名護屋城博物館蔵



豊臣秀吉画像
 江戸時代初期 17世紀
 佐賀県重要文化財 佐賀県立名護屋城博物館蔵

三都の栄華伝える屏風、秀吉の朱印状なども

もちろん今回の特別展の魅力は、黄金の茶室だけではありません。桃山時代、京、大坂、肥前名護屋の三都は、どんな規模で、どんなにぎわいを見せていたのか。三つの都市それぞれを描いた屏風がそろっています。

まず見てほしいのは、「浮世絵の祖」と呼ばれる岩佐又兵衛が京の都を描いた国宝「洛中洛外図屏風（舟木本）」の高精細複製品です。こちらは、右端に豊臣秀吉ゆかりの方広寺を配し、左端には徳川家康の二条城を描いています。豊臣家と徳川家の象徴を対峙させており、1615（慶長20）年の「大坂夏の陣」に近い時期に描かれたと考えられます。画面には2500人近い人々が描かれ、市民の暮らしぶりを見ることが出来ます。

「大坂城図屏風」は、豊臣期の大坂城を描いた現存最古の作品です。本来は8曲が6曲だったとみられますが、現在は2扇分が一隻に仕立てられています。大坂城天守をはじめ、極楽橋や天満橋とともに、四天王寺周辺の情景を描いており、城下に暮らす人々の様子も確認できます。

「肥前名護屋城図屏風」は名護屋城が画面中央上部に描かれ、5層の天守をはじめ、周辺に広がる全国から集まった大名たちの陣屋、城下町に暮らす人々まで描かれています。左側中央付近の明国から訪れた使節団の姿から、1593（文禄2）年5月ごろの様子と見られます。

桃山三都展は1月29日（水）まで。会期中、国宝5点、国重文5点を展示しますが、作品保護のため、一部作品は展示替えがあります。

桃山三都 ー京・大坂と肥前名護屋ー

佐賀県立美術館 2・3・4号展示室（佐賀市内1-15-23）

開館時間 9：30～18：00

休館日 毎週月曜（祝日の場合は翌火曜）

12/29（日）～1/1（水・祝）

観覧料 当日一般 1,400円 / 高校生以下 無料

主催 佐賀新聞社、佐賀県立美術館
 特別協賛 木下グループ、草苑、冠婚葬祭セリエンス、ホテルマリアーレ備世
 問い合わせ 佐賀新聞プランニング TEL 0952(28)2151（平日9：30～17：30）

2024 12.6（金）ー 2025 1.29（水）

関連イベント

【セミナー】

大明国より勅使名護屋までこし候ー豊臣秀吉と文禄・慶長の役ー

1月11日（土）13：30～15：30

美術館2階画廊 県立博物館副館長 浦川和也

※参加無料、定員約30人、予約不要